

モリアオガエル保護方法の探求

山形中央高等学校生物部 柴田健登

I はじめに

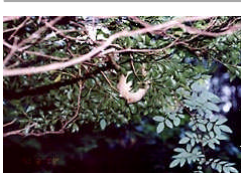
2012年先輩は山形市山家町深沢不動奥の院鏡池にてモリアオガエル成体の棲息を30年ぶりに再確認した。2015年6月再調査で卵塊や幼生は見いだせなかったが、鳴き声を確認した。調査地は最寄りの住宅街から約2kmの場所である。30年前は町から500mの地点で多くの卵塊があった。山形市周辺のモリアオガエルに絶滅の可能性が見られた。(調査地は保護のためおおよその位置を示しています)



↑奥の院 鏡池は、この奥にあります。

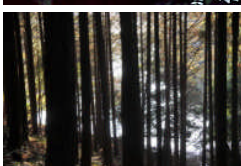
II 衰退原因の分析

- 1 スギが優先し産卵に適した木が全く無かった
- 2 2012年5月はイモリが存在し幼生の食害が懸念された
- 3 周囲のスギが成長し、光合成による池の生産力が低下した
- 4 2016年6月はイモリがほとんど見られなかった(餌不足?)
- 5 ナラガレ(樅枯れ)などにより、餌資源が変化した



III 考えられる対策

- 1 産卵木を池の周囲に仮設する
- 2 イモリおよびヒキガエル卵を鏡池下流150m地点に移出する
- 3 産卵が確認され、陸上など不適切な位置へ産卵がある場合保護し、ある程度大きな幼体まで人工飼育し、放流する
- 4 地権者と相談し、池の光環境を改善する



IV 人工飼育について

先輩の助言により ①変態終了まで飼育は容易であった。②餌としては初期はシロアリ、大きくなってからは若齢のコオロギが適していることが分かった。

よって、①シロアリの巣確保。②コオロギ飼育は悪臭問題があるため、デュビアの繁殖に着手している



↑デュビア幼体

V デュビア *Blaptica dubia*. について

英名:アルゼンチンフォレストローチ 繁殖効率が低いことを除けば「飛ばない・鳴かない・壁を上らない・臭わない」性質を持つ理想的な生き餌生物。運動能力をほとんど失っていること、植物資源しか食べないが増体が良いことは、ゴキブリからシロアリへ進化する過程を考えさせてくれます。